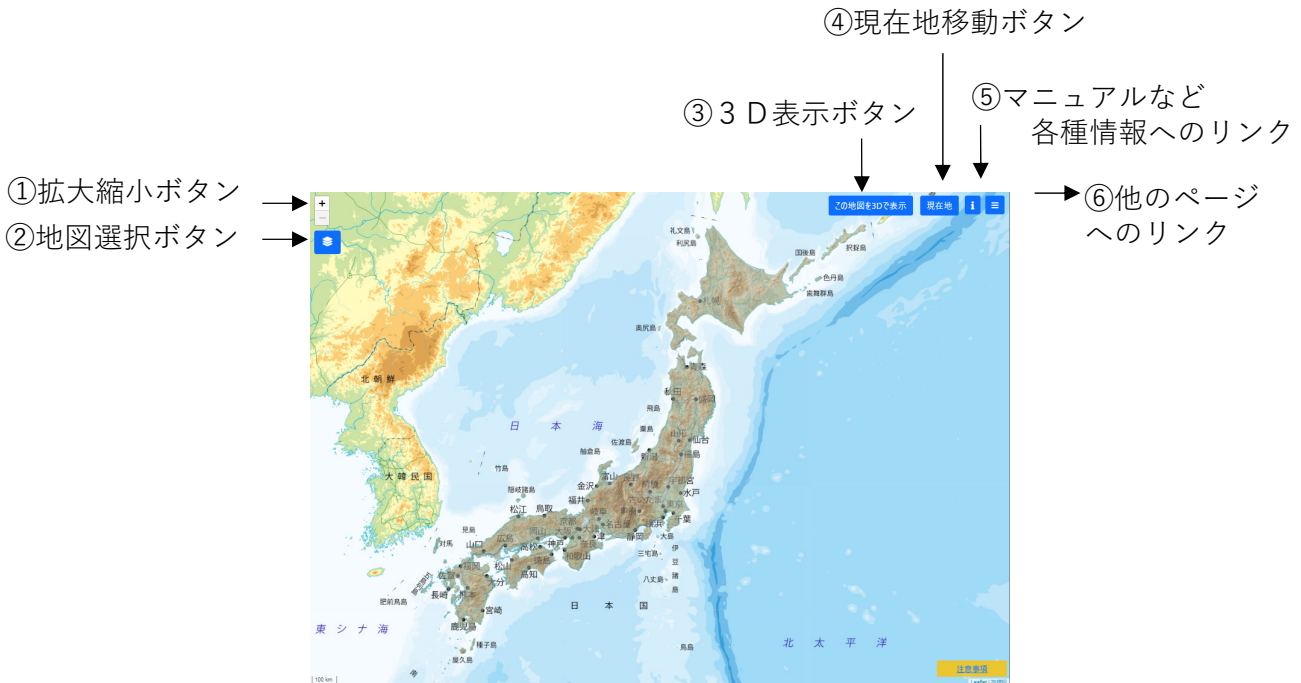


操作マニュアル

地図画面の操作方法



① 拡大縮小ボタン

マウスのホイールボタンで拡大縮小が行えますが、こちらでも拡大縮小することができます。

② 地図選択ボタン

はじめにここをクリックしてみてください。 地図選択、透過率の調整などのメニューを開くボタンです。

③ 3D表示ボタン

画面表示エリア分だけをピックアップして3D表示にすることができます。

④ 現在地移動ボタン

現在地に移動することができます。位置精度はPC・スマホ等の使用環境によって異なります。

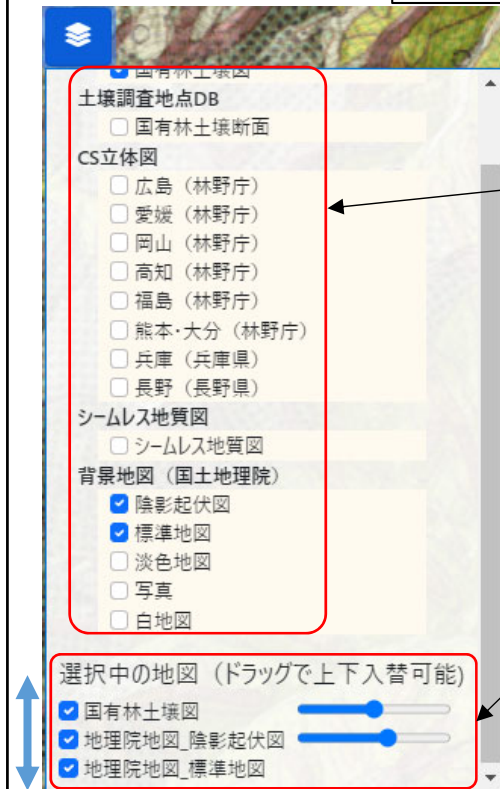
⑤ 各種情報へのリンク

各マップの説明、操作マニュアルなどへのリンクが表示されます。

⑥ 他のページへのリンク

ホーム画面等、他のページへのリンクが表示されます。

地図選択画面の操作方法



①地図選択メニュー

チェックを入れるとその地図が表示できます。

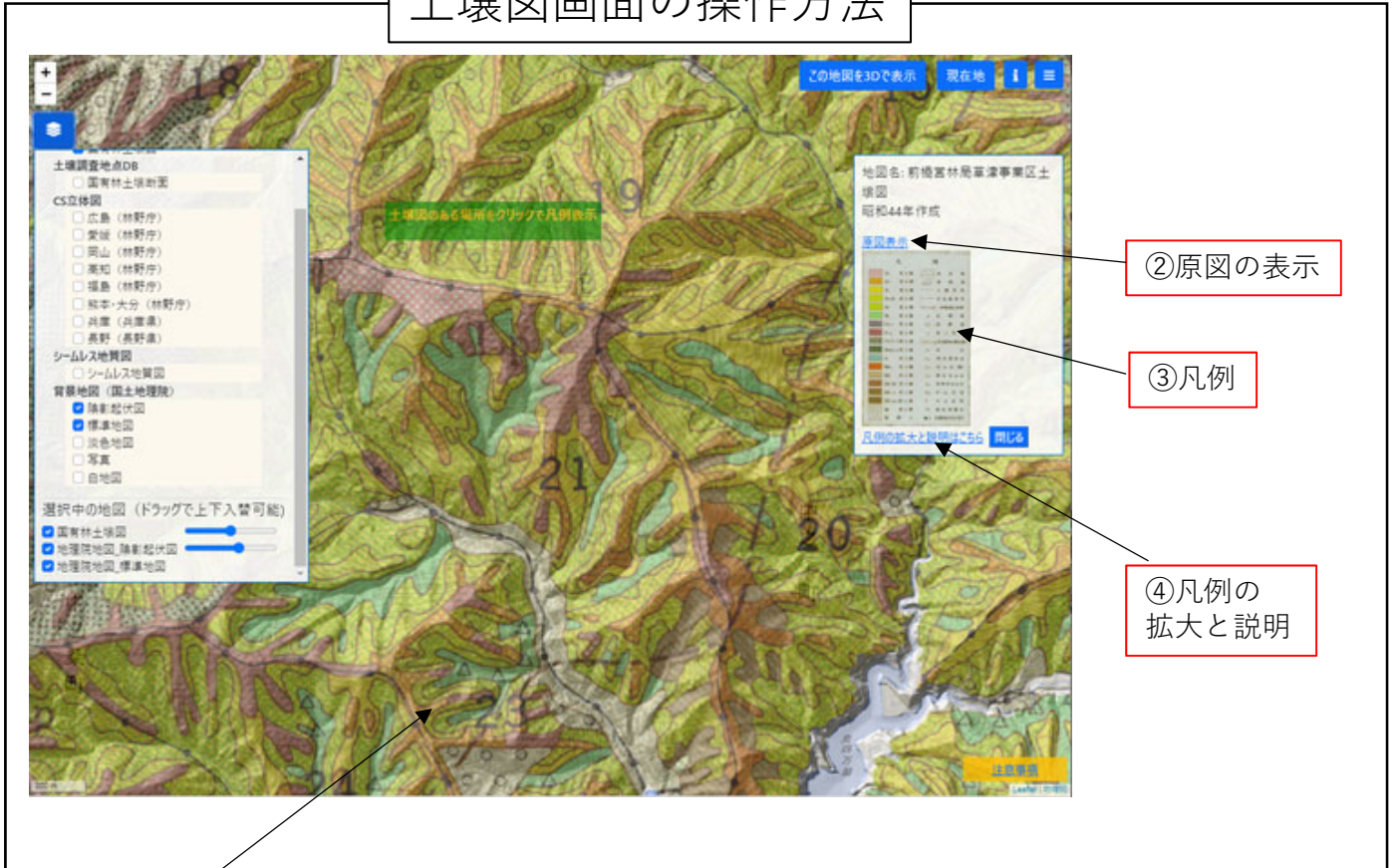
最後に選択された図が一番表面（上）に表示されます。ただし、地理院地図は常に背景として表示されます。

②地図透過度設定バー

①で選択した地図が自動的に配置されます。地図名をマウスで上下にドラッグすることで、重なり順序を入れ替えることができます。

地図名の右側の青いバーを動かすことで、透過率を調節できます。青いバーが多いほど透過率は低くなります。

土壤図画面の操作方法



①土壤図の上をクリック

土壤図を選択中に、土壤図上をクリックすると右側に凡例が表示されます。本システムでは各営林局・地域で作成された紙の土壤図版（約900枚）をウェブマップ上で表示しており、土壤図版ごとに凡例が異なります（シームレスなマップではありません）。そのため、**画面のマップ上に表示された色と土壤型の対応を確認する際は、必ずクリックしてその地域（土壤図版）の凡例を確認してください。**

②原図の表示

表示されている地図の土壤図版（主に二万分の一）のjpg画像を別ウィンドウ（タブ）で表示します。画像ファイルは重いためダウンロードに時間がかかることがあります。

③凡例

表示されている地図の凡例です。縮小して表示しているため、見えにくい場合は下の「凡例の拡大と説明はこちら」をクリックしてください。

④凡例の拡大と説明

表示されている地図の凡例のjpg画像を別ウィンドウ（タブ）で表示します。表示されている土壤型の説明についてもこちらをご参照ください。

土壌図凡例説明画面の操作方法

凡例

	BB 型土壌	--- 岩石地質界
	Bd(d) 型土壌	a 沖積層
	Bd 型土壌	t-Hg 舟形層
	BE 型土壌	t-Zz 新常禪寺層
	Pdm(II-Iを含む) 型土壌	t-Hk 第古口層
	Pw(h)-m(II-Iを含む) 型土壌	t-Kn 三草薙層
	Pp 型土壌	t-Ky 紀金山層
	G 型土壌	t-Nz 及位層
	Im 型土壌(砂丘)	pt-cl 先第三紀粘板岩結晶片岩類
	Er 型土壌	Mu 火山泥流
	土層の浅い土壌	V 安山岩質火山碎屑物
	石礫の多い土壌	An ₃ 第四紀安山岩類
	岩石地	Ry 流紋岩類
	土壌型界	Da ₂ 鮮新～更新世石英安山岩類
		An ₁ 中新世安山岩類
		B 玄武岩・粗粒玄武岩類
		Pg 花崗班岩類
		Gr 花崗岩類
		gng 片状花崗岩～片麻岩類
		●P5 試孔点位置および番号
		●P7 代表断面および番号

地図名：秋田営林局鶴岡事業区土壌図（全5片の4）

旧営林局：秋田営林局

森林管理署：庄内森林管理署

旧行政地域名：東田川郡朝日村

調査年度：昭和40、41年

刊行年：昭和43年

説明書PDF：[ATR34](#)

②土壌図版の基本情報

③説明書のリンク

地図上の標記	現在の土壌群	現在の土壌亜群	現在の土壌型	説明リンク	備考
BB	B	B	BB	BB	
BD(d)	B	B	BD(d)	BDd	
BD	B	B	BD	BD	
BE	B	B	BE	BE	
PDIII(II・Iを含む)	P	PD	PDIII	PD	PDI, PDIIを含む
PW(h)-III(II・Iを含む)	P	PW(h)	PW(h)III	PW(h)	PW(h)I, PW(h)IIを含む
PP	Pt	Pp	Pp	Pp	
G	G	G	G	G	
Im(砂丘)	Im	Im	Im	Im	
Er	Im	Er	Er	Er	

④地図上の土壌型と現在の土壌型の対照表

当サイトに関するお問い合わせは、soilmap@ml.affrc.go.jpまで

①凡例の拡大画像

画面上に表示された地図の凡例です。各土壌図版の凡例部分を切り取ったものです。地質等の付加的情報が含まれる場合があります。

②土壌図版の基本情報

各土壌図版の作成者や調査年度の情報が表示されます。

③説明書のリンク

各土壌図版に対応する土壌調査報告書（説明書）のpdfがご覧いただけます。土壌図版はこの説明書の付録となっており、**説明書本体には土壌図の作成の参考とした土壌断面や地域の土壌についての情報が豊富に記載されています。**ぜひ土壌図と合わせてご覧ください。

④地図上の土壌型と現在の土壌型の対照表

土壌図は1947年から1987年にかけて作成されており、凡例の土壌型表記には現行の分類体系である「林野土壌の分類（1975）」（土じょう部、1976）にはないものがあります（詳細は[こちら](#)）。そのため、この対照表では専門家の意見を元に現行の土壌型との対応を示しています。この対応関係は一意に決まるものではなく、地域・時代によって異なる場合もあるためご注意ください。現行の土壌群、土壌亜群までしか対応関係を示すことができない場合も多くあります。また、**説明リンクからは対応する土壌群・型の分布・特徴・代表断面写真などが参照できます。**

3D表示画面の操作方法

選択中の地図のうち、最も上に位置するマップを3D表示にする機能です。地図の中心点を中心に切り取ったエリアを3D表示にします。

①操作方法ボタンと終了ボタン

操作方法を押すと操作方法マニュアルが表示されます。

3D表示を終了する場合は「閉じる」ボタンを押して下さい。



地図の回転はマウス左ボタンでドラッグ
(タッチ操作では1本指でドラッグ)
カメラの移動はマウス右ボタンでドラッグ
(タッチ操作では2本指でドラッグ)
カメラの前進・後退はマウスホイールの回転
(タッチ操作ではピンチインとアウト)



②左側 高さの誇張係数ボタン

高さを誇張して表示することができます。上向き矢印は誇張を大きく、下向き矢印は誇張を小さくします。○はデフォルト値に戻します。

右の回転ボタンは、地図の向きを北向きに戻します。

土壌調査地点DBの操作方法

The screenshot shows a window titled '土壌調査地点DB' (Soil Survey Location DB) with a close button (X) in the top right corner. Below the title, the location ID is '地点ID: N0190MBFS0037P005' and the soil map name is '土壌図版名: 前橋営林局郡山事業区土壌図 三片の内第一片'. A table displays soil profile data for '郡山' (Koyama). The table has 15 columns: 断面地 (Cross-section site), 層位名 (Layer name), 層区分 (Layer division), 上端 (cm) (Top depth), 下端 (cm) (Bottom depth), 層厚 (cm) (Layer thickness), 砂 (%) (Sand), 粗砂 (%) (Coarse sand), 細砂 (%) (Fine sand), 微砂 (%) (Silt), 粘土 (%) (Clay), pH(H2O), y1, OC(%), N(%), and Ex_C. The table contains five rows of data for different soil layers.

断面地	層位名	層区分	上端 (cm)	下端 (cm)	層厚 (cm)	砂 (%)	粗砂 (%)	細砂 (%)	微砂 (%)	粘土 (%)	pH(H2O)	y1	OC(%)	N(%)	Ex_C
郡山	L	L	-5.5	-4.5	1										
郡山	F	F	-4.5	-1.5	3										
郡山	H	H	-1.5	0	1.5										
郡山	A1	A	0	12	12		37	19	15	16	5.58	2.85	6	0.36	
郡山	A2	A	12	19	7		46	17	16	12	5.96	0.55	3.5	0.18	

At the bottom right of the window, there are two buttons: 'CSVダウンロード' (Download CSV) and 'Close'.

土壌調査地点DBの表示について

土壌調査地点DBを地図として選択中に地図上の点（●）をクリックすると上記の表が表示されます。各地点で過去に調査された土壌断面の情報を示したものです。各項目の説明は以下の通りです。空白項目は未測定もしくはデータベース更新作業中のものです。

- 断面地：土壌図版の地域名称（事業区名）
- 層位名・層区分：土壌断面を土壌生成の特徴に応じて層位ごとに分けたもの
- 上端・下端：各層の深度。A0層（LFH）は負の値で示されています。
- 砂・粗砂・細砂・微砂・粘土：土性区分に必要な粒径組成の割合
- pH(H2O)：水抽出液のpH
- y1：交換酸度
- OC：有機炭素濃度
- N：全窒素濃度
- Ex-Ca：交換性カルシウム濃度

特性値マップ（炭素）の操作方法

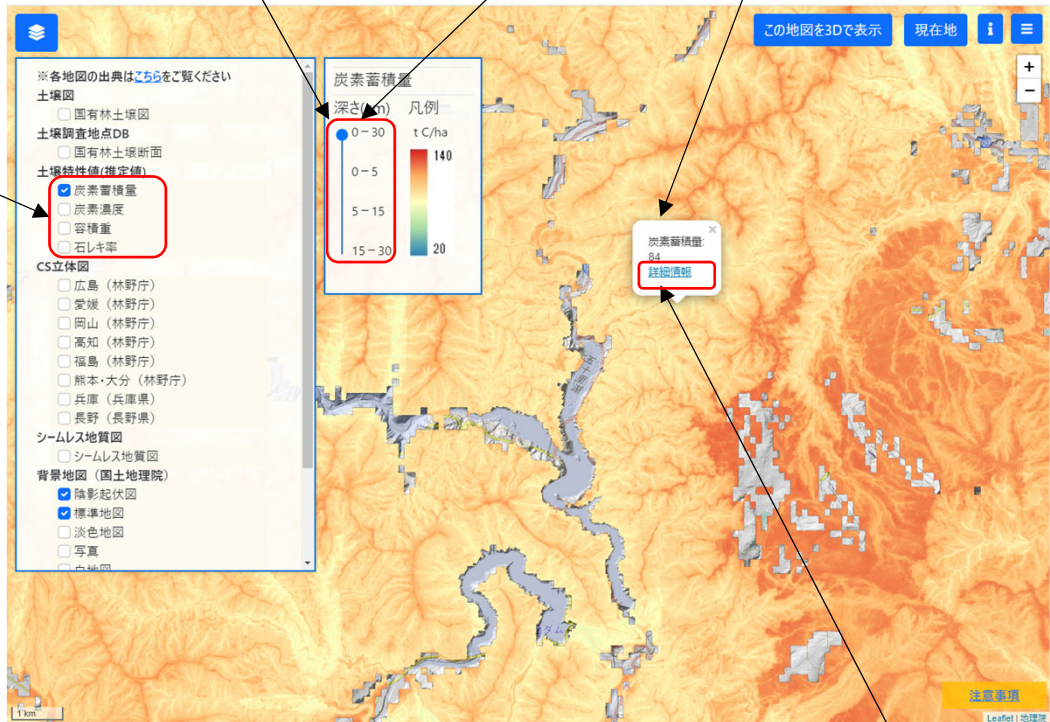
土壤炭素蓄積量とそれに付随する特性値を表示します。3D表示も可能です。
但し、他のマップと重ねて見ることはできません。またズームレベルは15までの表示となります。

この青い●を上下に動かして選択できます。

②深さの選択

③値の表示

①特性値の選択



①特性値の選択

炭素蓄積量、炭素濃度、容積重、石レキ率のうち1つのみ選択できます。

②深さの選択

表示したい特性値の深さを指定します。深さを指定すると、それに応じて凡例も変化します。

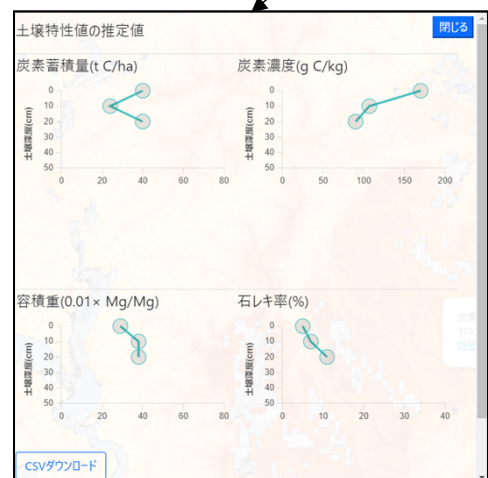
③値の表示

クリック（タッチ）した地点の特性値の値を表示します。

④グラフの表示（ズームレベル15まで）

③の詳細情報をクリックすると全ての特性値のグラフが表示されます。縦軸は土壤深度です。炭素蓄積量は0-5、5-15、15-30cmにおける総量、その他は各深度範囲における平均値です。

④グラフの表示



この特性値マップは森林吸収源インベントリ情報整備事業における森林土壌の調査データ（林野庁、2006～2011）を基に機械学習によって推定したものです。推定の手法やマップの持つ誤差についての詳細は[こちら](#)をご覧ください。利用規約に同意いただいたうえでご利用ください。